

ともしび

1988. 7



第4号

大学婦人協会東京支部

題字デザイン・津森都留子

● JAUW 初代副会長 田中照子氏に聞く

極力御辞退致しました筈の大役を結局、新年度から私が引き受ける羽目になりましたが、この決意も、これ迄の私の人生の導きとなって居りました母校のバッジ「犠牲と奉仕」の教えに、又々背くことが出来なかった結果のようでございます。代々の東京支部長様方の並々ならぬ御力と御苦労に甘えさせて頂いて参りました事を申し訳なく存じ、改めて厚く御礼申し上げます。誠に行届いた御計画や御通知を頂き乍ら忙しさにまかせて「長年の教職と主婦業に追われて」、思うようにお手伝いも出来ませんでした事を残念に存じて居ります。

この度は有能な副支部長様方や役員、委員の皆様方と御一緒に東京支



東京支部長 藤井賤恵

「どうぞよろしく！」

部の為に全力投球が出来ます様に願って居ります。行届きませんがどうぞよろしくお願い申し上げます。

「人と人との交流に依って人間は成長する」と云う言葉がありますが、皆様も御多忙ではございませんが、是非催しものに御参加下さいませ。これ迄の私の経験からでも、いつも「出席してよかった」と感激する事ばかりでございました。又その機会毎に良いお友達にめぐり合い、若やいだ気分になりました。私共一同も皆様に喜んで頂きます様、より良い計画をと念願致して居りますが、皆様も何か良い御提案或いは御希望がございましたら御遠慮なく私共にお知らせ下さいませ様、どうぞよろしくお願い申し上げます。



ゴゼンタチバナ

六十二年度

東京支部総会報告

昭和六十二年東京支部総会は、四月十六日(土)に国立教育会館で開催された。出席者七十四名、委任状提出三百三十六名を得て、会は成立した。

吉武支部長のご挨拶の後、審議に入り、六十二年度事業報告及び決算報告があり、承認を得て、会計監査報告がなされた。次に、六十三年度事業計画案、及び予算案が説明され満場一致で承認された。

今年には会長、支部長とも交代の年にあたり、新支部長藤井賤恵様のご挨拶、新会長中村ミチ様のご挨拶をいただいた。さらに新役員の承認と新委員の紹介があつて議事は滞りなく終了した。

休憩の後、亜細亜大学学長・衛藤藩吉氏の「アジアと日本」という演題で講演があった。質問も多く、興味深い内容であった。

新しいメンバーで気持ちも新たに東京支部の活動がいよいよ開始された。

講演会

—日本の国際化を考える—

「国際社会と日本」

東海大学助教授 首藤信彦氏

三月十九日・国立教育会館

国際経営、国際政治経済、危機管理を専門分野としておられる首藤氏は、まず「欧米に追いつき追い越せ」と戦後の復興と経済成長にかけて来た日本が今や「世界が期待する日本」になったことを述べられ、その事実を認識せずに世界に期待する感覚を持ちつづけていることが国際摩擦の原因であることを、相撲の取り口にぞらえて指摘された。企業の海外進出に際するシェアの拡大についても、欧米諸国は一国につき二社が限度であるのに比して日本は数十社であることを挙げ、それは日本がいかに世界の苦しみに対して無知であるかを示し、非難の的となる所以であると述べられた。海外へ行く人が増えても意識の国際化はむしろ明治時代より遅れており、これから私達がしなければならないことは、相手国の事情を考慮しながら、国家—政治レベルに頼らずに、地域あるいは個人レベルで真の国際化を進めることであると結ばれた。

「アジアと日本」

亜細亜大学学長 衛藤清吉氏

四月十六日・国立教育会館

国際関係論とくにアジア問題が専門である衛藤氏は、「日本人のアジア人に対するかかわり方」を副題として、戦中戦後をとおして氏が衝撃をもって体験された日本人の軍国主義から民主主義への考え方の変化を学問的に分析することから始められた。長い間中国文明圏に入っていた日本がその中心である中国に対して持つてきた意識には、優れた者に対する憧憬と対抗意識が共存しており、傾倒と蔑視の感情が何かのきっかけで入れ替わる心理現象であるという。「周縁少数民族の劣等感複合 (Peripheral minority complex)」と「愛憎症候群 (love-hate syndrome)」という心理学用語を使つての説明は興味深く思われた。

明治以後欧米文化圏に入った日本にはアジアを一段低くみる傾向があるが、前述の心理を心にとめ、常に相手がどう考えるかを相手の立場に立つて考えながら、アジアに対する独自の接し方を開発することが、いま国際社会の先頭に立つて歩く日本に与えられた重要課題ではないかと提言された。

(吉武勇子)

★大エジプト展見学★

東京国立博物館で一ヶ月半にわたり、ベルリン国立博物館所蔵の古代エジプトの遺品約二百点が展示され、連日大盛況だった。支部では五月下旬に参観し、美術史講座で名講義を頂いた杉山二郎先生から緩急自在の素晴らしい説明を受け、心豊かな半日を過ごすことが出来た。

私共が書物や映像でエジプトの遺品を目にする機会はかなり多い。ピラミッド、スフィンクス、オペリスク、ミイラ等、巨大指向でいささかエクセントリックなイメージを持つ文化である。多神教であり、農耕社会であつたことも凡そは知っている。しかし、「石像を見ると、四千年も昔に既に内臓や筋肉について正しい知識を持っていたことが分るが、これはミイラ技術があつてこそなのである。」というお話を伺うと、切れ切れの知識が一つに繋がり、石像が体温を感じさせる程現実感のある存在となるのには驚くばかりだった。また、日本では海が異文化の流入を妨げたが、エジプトも地中海、紅海、サハラ砂漠、山地により外来文化が遮断されていたことや、身近な動物に神

性を付与した汎神信仰は、同じ農耕社会であつた日本の八百万の神と似通つたところがあること等のご指摘は、古代の獣面の神々に思いがけない親しみを覚えさせてくれた。

支部の参加者は二十八名だったが、杉山先生の学識豊かにして平明な解説に魅きつけられた一般の方々が次第に増え、五十人程の集団で一つの展示品をゆっくり楽しんだのである。

古代エジプトでは、男女とも頭髪をすっかり剃り上げていたことをご存知でしたか？ 蚤や虱対策だそうです。身分のある人は儀式の時に髪をつけました。付け髻をつけることもありました。アーモンド型のチャーミングなアイラインも縄除けだったとは！



他支部活動紹介

岡山支部

支部誕生二十周年を過ぎて

喜多嶋美枝子

岡山支部は昭和四十一年に誕生、現在会員八十八名。昨年は初代支部長九十歳の柴山姉をはじめ歴代支部長八名を囲んで支部の生い立ちを伺い、芳紀まさに二十歳の重さを感じました。去る四月一日には第三十一回通常総会を当地で開催、二百名を超える会員の御参集を得て盛会裡に責任を果たしたところです。

支部の活動は年五回の例会を開き、全国セミナーのテーマにそって講師の先生をお招きし勉強をします。その他支部の最大の行事は五年前より始めました「外国人による日本語弁論大会」の開催です。資金調達のため五月にバザーを開催、恒例の会員特製カレー、ケーキ、パン、ゼリーを腕によりをかけて作ります。昨年は出場者十ヶ国より十九名、聴衆三百五十名を得て個性豊かな熱弁に会場がわきました。会員の新年親睦会に出席者を招待し交流を深めました。このエネルギーを今年は全国セミナー

に向けての勉強会に注ぎ、こうと張切っています。

福岡支部

筒井和子

六十三年度のスタートは、協会創設以来の生き字引の和栗さん、桜楓会の大黒柱の橋本さん、共に前支部長が揃って八十六歳の高齢とは思えぬ気力で、岡山大会へ十二名の会員と参加されました。その余力をかり四月はバスツアーを実施し、佐賀へ古墳見学。有明海名物の「カニ料理」の試食へ出かけ、もえる若葉の中で親睦の目的を果し得ました。六年目を迎えても至らぬ支部長ですが、各団体への協力を心がけて以来多忙となりすぎました。会員方の教育にかける熱意と国際交流への意欲はあつく、二年前訪韓団が出来「大韓女学生協会」との交流がソウルで実現しました。月一回の例会は心の休まる余裕もないのですが、中食を共にして各界の方々のお話がきけますのも会への御理解の賜物なのです。「五月支部総会」「六月中国からの留学生の招待会」計画は楽しくても私の願いは若い会員がほしい、支部会計に余裕を生み出さねばと、苦勞はつづきます。お察し下さい。

支部見学会

深川下町めぐり

吉永淑子

森下の駅を西に折れると俳聖松尾芭蕉が住んで居たあたりに、芭蕉記念館が建てられてある。丁度今年は奥の細道の旅から三百年に当り、館内では記念展が催されていた。四十六歳の芭蕉が、門人曾良と共に深川の採茶庵から舟で千住へ行き、そこから陸に上って行程六百里、日数百五十日に及んだ旅は、日光、松島、平泉、出羽三山、象潟等の史蹟や名勝に接し更に北陸路を廻って大垣に到着する壮大なものであった事がビデオによってうかがわれた。展示の遺品、書画、研究資料等を拝見してお庭に出ると、垣根の外は隅田川が流れ川風がとて心地よかった。

お昼は深川めし本家。みやこでお座敷に座り、深川めしに、天ぷらの盛り合せ、焼豆腐と蛸の煮物、おすましにお香物で下町の味をゆっくり美味しく頂いた。あざりと葱とお揚げを炊き込み、三つ葉と、もみ海苔で飾った深川めしは昔の汁ごとかけて食べる形態とは違ふ、うさだが、帰宅後再現してみたいと思った。

午後芭蕉庵跡へ廻り、万年橋を渡

って深川江戸資料館へ行く。地下一階から三階迄の吹き抜けの展示室には実物大の町並が再現されていて、江戸深川の様子を楽しく見学出来た。次の清澄庭園では紫陽花の咲く美しい庭園を一周し、此処で一応解散となった。希望者はその後門前仲町の深川不動堂の縁日へ行く。賑やかな参道、仲見世通りを経てお詣りし、近くの三年に一度の本祭りには神輿五十基余が水を浴び乍ら練り歩く夏祭りや有名な富岡八幡宮へも参拝した。境内の横綱力士碑等江戸の石造物に感心し、都内最古の鉄橋の八幡橋を渡った。家康が江戸入り後、町作りをした時、寒村から江戸八百八町の町並みに加えられ、後に一変して「いき」といなせで知られる江戸っ子の代表的な場所の一つとなった深川を楽しむめぐり、夕方の川風にやさしく吹かれ乍ら当時の人々の行き交う様子を思い巡らし帰路にいった。





『私の昭和史』

大学婦人協会の草創期

—田中照子氏に聞く—

’88年JAUW新春懇親会に出席された方は、大学婦人協会草創の頃、会の発展に尽くされた大先輩の方々の話を御記憶のことと思う。そうして今では到底考え及ばない当時を以て体験され戦争を挟んだ前後からJAUWと関わってこられた生のお話に感銘を受けた方も多かったことと想像される。

編集部では、当日出席されなかった会員の方々にこれらのお話をお伝えしたいと考え、その中で最長老の田中照子氏のお宅をまず訪問させて頂くことにした。単なる事跡の羅列ではなく、それを体験された御本人から直に生きたお話を伺いたかったからである。

五月末の好日、緑濃い芝生のお庭と瀟洒な白い建物のコントラストも美しいお宅で、八十六歳というお年の先生は

「昔のことで忘れた所もあるけれど何でもきいてください。お答えしますよ」

とチャーミングな笑顔を向けてくださった。

以下は、御自分のこと会のこと、いろいろとりまぜて順序不同にお話

しくださったものをまとめたものである。

私は明治三十五年の生まれ、お茶の水附属高女を卒業してすぐに渡米し、ボストン郊外のウェルズレーカレッジに留学しました。四年間化学を専攻して帰国したのは昭和になつた年でした。理研に勤めましたがその時二十四歳、日本では婚期が遅れたと見られる年で、親戚から「照ちゃんを早くかたづけなくては」と云われ、荷物を片付けるみたいでいやだなど思いましたよ。私自身はもう一度渡米して勉強したいと強く願っていました。幸いニューヨークの国際教育協会の推薦でシカゴ大学大学院の研究生として留学出来ました。

その嬉しかったこと、まさに小踊りするという実感でした。シカゴ大学の寮にいた時、たまたまアメリカの大学婦人協会(AAUW)発足の初会合の話を知ることが出来ました。この協会は参加校の学力程度が高いばかりでなく、大学教職にある女子を男子と同じに待遇しないと大学として退会させられるということで婦人の地位向上のために大変力を入れている団体だということがわかりました。

一九二九年帰国しましたが、理研へ勤める傍ら母校の英語の講師を頼まれたりしました。本当は化学を教えたかったのですが、そのお話はなかったですね。

その頃、すすめられてAAUW東京(日本)支部長を引受ける事になりました。私のような若輩を支部長にと云われたのは、日本でも個人が自分の仕事の他に国際的に奉仕するようにと温かく勇気付けてくださったのでしよう。

会としては、時の拓務大臣永井龍太郎氏に講演をお願いし会場は当時非公開放だった清澄公園を特に使わせて頂いて、きれいなお庭で、とても好評でしたよ。又アメリカから視察に来日した家政学会の方々を招待して隅田川に一夕屋形船を浮かべて清遊した事もありました。

この他、少数の地味なスタディグループを作って昼間のそれぞれの仕事の後、夜集まって勉強会を持ちました。YWCAの体育の指導者だったミス

ローや双子の英語の先生チヤベルシスターズ等がメンバーで、英訳本で日本文化の勉強をしようということでした。私にはよくわからないけれど、古今集の序文はイギリスのロマン派詩人シェリーの詩論に通じる所があるとか云っておられたのを思い出します。

この頃ワシントンの本部からの便りで、先進国には大学婦人協会があちこちに出来ているのを知り、何とか日本にも大学婦人協会が出来ないものかと願っていました。その願いを押し潰すように段々軍国主義が色濃くなってゆきアメリカ人等は帰国をうながされ、英語を使うようなグループは警察から調べられたりして私の所へもやってきました。又疎開も始まり、AAUW東京支部のお仲間も自然消滅してしまいました。

(先生の母堂メアリー キルビー氏は英人二世で長く慶応幼稚舎で英語を教えておられ、後にキルビー英語学校を経営して居られたので当時の様子は容易に想像がつく。キルビー英語学校も廃校を命ぜられたそうである。—編集部註—)

やがて終戦、GHQ女子高等教育顧問ホルムズ女史の熱心なお計らいでいよいよ日本にも大学婦人協会が出来た機運になりました。津田の藤田たきさん、粕谷よしさん、目白の

上代タノさんや東京女子大の天達文子さん北村孝さん等御一緒に、お茶大の先輩の先生方や山崎光さん等もお誘いしました。

終戦の翌年（昭和二十一年）大学婦人協会は発足しました。初代会長は藤田たきさん、私は副会長をお引受けしました。

戦後間もなく思い出すのはララ物資のことです。教会の先輩のエステーローズ女史（皇后様に英語を教えていた方）がララ物資の委員だったのでお願いして、JAUW各支部の戦災者に特別に支給して頂く事にしたのです。今の東京支部長、藤井賤恵さん達会員の方々にお手伝い頂いて大きな包みをほどこして荷造りし各支部へ送りました。沢山の感謝状をローズ女史にお渡ししましたら、こんなに沢山の御礼状を」と、とても喜ばれました。

同じ昭和二十四年、私達も少しでも奨学金を作ろうとお茶大講堂で音楽会をやりました。入場料は四十円でしたが、シャンソンを石井好子さん、長門美保さんにはマダム・バタフライ等を歌って頂いて楽しい会でした。これが第一回奨学金募金で、実務、税務報告等大変でしたが高桑花子さん戸部ミヅさん達、会員の方々

のおかげで成功しました。私は前から英語専攻でない方、外の仕事を持たない家庭婦人にもJAUWで活躍して頂きたいと考えていましたので、お茶大実科出身の松本喜美子さんを横浜支部長に、目白出身の高桑花子さんを婦人の地位向上の委員にお願いしましたが、協会が初めて文部省の補助金二十万円を受け、全国的に家庭婦人の職業に関する意識調査を行った時等、大変力を発揮してくださいました。



（めばえ編集風景）

右から高桑花子 田中照子 田中里子 菅支那 中村紀伊 吉井千賀子 勝部三枝子の諸氏

その頃、東京を本部としてラジオフリーアジア（アジアの平和の為の情報提供団体）が出来、JAUWも日本婦人平和協会、主婦連、地婦連等他団体と一緒に参加協力しました。又ラジオ放送ばかりでなく、婦人の社会的発展を目指した小雑誌「めばえ」も何回か出版しました。

仙台支部（大脇静枝支部長）では昭和二十六年五月母の日に在日米陸軍病院を慰問して傷病兵に花束を贈った事がありました。この傷病兵の一人のお母さんだったハルバーソン夫人（AAUWのリバーサイド州州の有力メンバー）が大変喜ばれて、昭和二十八年から向うで東北大学の女子学生の為の奨学金運動を起しスカラーシップの制度が出来たそうです。それが御縁で両市が提携都市になったということです。

その後、昭和二十八年に私は東京支部長をお引受けする事になりました。

翌年、セイロン（スリランカ）でアジア太平洋地区総合婦人大会が開かれ私が出席し、セイロンの大学婦人協会へJAUWの野見山会長からのメッセージをお渡ししました。

この時初めて英米以外の仏教、回教、パーシー（拝火）教の国々の方

達と親しくお話しする機会を持ってとても楽しかったのを憶えています。帰りはバキスタン、印度、ビルマ、タイ等それぞれ風土風俗の違う所を訪ね強い印象を受けました。

昭和三十一年にメキシコでIFUW総会があり、日本から初めて野見山団長以下十二名が出席しました。

JAUWは会員皆様のお力で立派に育って参りましたが、先年オランダでIFUWの総会があつて、日本の高野フミさんが全世界の会長として立派に勤められた時は、私も一会員として出席出来て本当に嬉しかったのです。日本の大学婦人協会の設置に尽くされたホルムス女史が御健在だったらさぞ喜ばれたことと感無量でした。

日本には大学婦人協会が出来ているばかりでなく、私達の中には、国際的にリードして下さる立派な会員がいっぱいいるのですから。

先生のお話にはこの他にも河井道子、星野あい、菅支那、吉田武子、黒田チカ、保井コノ、田辺繁子他多数の方々のお名前が出て、女子教育に、学問に情熱を傾けられた先輩のお若い日々が偲ばれ私共も一時、草創期のさ中に佇む思いがした。因みに田中照子氏は'85年東京都から教育功労章を、'86年には勲五等瑞宝章を授与された。（編集部）

倉敷と瀬戸大橋

—もう一つの岡山総会—

全国総会に出席するもう一つの楽しみは観光です。今年は、歴史と美術の町倉敷と、間もなく開通で話題の瀬戸大橋を見学するプランでした。会報に発表されてからとても楽しみにしておりました。岡山支部の皆様への綿密な計画と行き届いたお世話に厚く御礼申し上げます。

「倉敷の夕べ」は、三十一日夜催され、館長 藤田慎一郎氏のご講演がありました。大原孫三郎氏と児島虎二郎画伯お二人の交流によって、大原美術館は誕生、今日にみる規模にまで発展し、又来年に向けて活動を続けています。ギリシャ風装飾をほどこした柱を見れば、誰でもそれとわかる有名な美術館、蒐集されている作品のおびただしさに、限られた時間を恨めしく思いました。エル・グレコ、モネ、ルオー、モディリアニをしつかりと目に納め、つややかに光り輝く浜田庄一、バーナード・リーチの陶器にみとれ、棟方志功の版画の強烈さ、芹沢銈介の鮮やかな染



色に心を奪われました。

美術館を中心にこの一画は保存地区に指定されています。倉敷川をはさんで両側に残されている本瓦葺、白壁造りの低い家並みに、江戸時代の人々の生活をしのびました。

あいにくの曇り空で、瀬戸大橋へ向う途中の鷺羽山スカイラインは、あまり楽しめませんでした。四国まで見渡せるという瀬戸内の海に浮かぶ島々の美しい景色は写真でがまんすることにしました。残念、残念。二時、いよいよ瀬戸大橋の見物です。貸切りの高速艇クルーズに乗り込み、老船長さんのダミ声の説明を耳にして一時間、海上を渡りました。波の冷気が身にしみず。

計算しつくされた数値と建築美とが見事に調和した瀬戸大橋に、ただただ目を見張るばかり。

瀬戸大橋とは、「三つの長い吊橋」のことだということを初めて知りました。下津井、北備讃、南備讃です。この三つの大橋と点在する島を利用

して建設された島橋、そして三ヶ所の架橋をつないで、児島・坂出間が結ばれているのです。所要時間はわずかに十分です。

四国の人々の長い間の希い、海に橋を架けるといふ壮大な夢がとうとう本当になったのです。この日は、自動車と列車が上下二段に並んで走る上段の道が、歩行者に開放された

朝曇り

白檀の香を曳く刀自や朝曇

蟬墜ちて土なき街のしじまかな

祭見る老優のふと遊び足

喜雨過ぎて風鮮しき裏浅間

白樺の湖に影揺れ夏惜しむ

麦嵐野を渡り行く果知れず

口づけむ氷河の泉青く澄み

記念の日だったとか。黒い小さな点々がゆっくりと動いておりました。時折通過する試運転の列車も、どこかのどかでした。十年の歳月を要した一大工事を終え、開通を静かに待っている美しく無垢な大橋に、やがて産業や文化、人々の暮らしや歴史が刻み込まれていくでしょう。

(海老原典子)

—大学婦人協会俳句会詠草 会員名簿順

指導 村上光子先生

村 上 光 子	住 吉 芳 子	高 橋 福 子	馬 場 八 巻	山 口 晃 子	山 田 環 子	鷺 崎 ヨウ子
---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

レクチャー&コンサートの お知らせ

今回、JAUW主催、L&Cが初めて行われます。会員の皆様の様々なニーズにおこたえし、かつ資金集めの一助となるものの一つとして企画されました。東京支部委員で音楽の各分野で活躍中の伊能美智子氏に企画並びに講義をお願いし、左の様な内容です。

ピアノ・山根弥生子氏は、有名な音楽評論家・故山根銀二氏の令嬢で、ヨーロッパで研鑽をつまね、世界中で活躍中の方です。御期待下さい。皆様の御協力のもと、次回へと発展する事を願っております。

なお、切符は本部で取扱い中です。よろしくお願い致します。

最近読んだ本



「ヒットのソフトウェア」

中沢文彦・相田英文 著

ヒット商品、ヒットコンセプトのアイデア発想法を伝授する本が氾濫する中で、果してどれだけ実効性があるかは甚だ疑問である。つまり、その手の本には「それ位のことは誰にでも分る」といった程度の内容しかないからである。しかし、本書「ヒットのソフトウェア」

「エア」は違う。学生時代からさまざまなニュービジネスを手掛け、卒業後も大学のサークルの友人達とベンチャー企業を創った相田英文氏とその仲間たちの物語である。大企業相手に「売れるノウハウ」を売り込みに乗り込んでいく姿が面白可笑しく描かれている。「大学卒業したての若造が何をふざけて」これが大企業の重役たちの決まり文句だった。が、組織や上司といった会社のしがらみを知らず、既存の枠に捉われたことのない彼らの自由な発想は、商品として具現化した時に遺憾なく力を発揮したのである。

相田氏の率いるユニバーサル・データ社は創業六年目を迎え、年商三億円規模にまで成長した。これは夢物語でも何でもない。本物のサクセスストーリーだ。昨今よく「遊び心の時代」といわれるが、遊びは本来机上の空論ではなく、本書に描かれている彼らの生き生きとした姿そのものではないだろうか。

(講談社・一〇〇〇円)

「ガン最前線に異状あり」

近藤誠 著

著者は、元支部委員猪狩和子さんの御兄弟で、現在、慶大医学部講師の傍ら、放射線病棟の医長等として最前線に活躍中。氏のユニークさは告知にある。米国での経験をふまえ、不治の病と恐れられた前時代的な発想を捨て、癌と知らせる事によって、患者とのコミュニケーションをはかり、信頼を得る。一体化した治療によって不安も取除かれ、患者の知る権利・治療選択の権利も守られる。日本の現状は欧米と比べ、乳房摘出等の手術に見られる様に、あまりにも不必要な、過度の投薬・検査・切除が行われており、結果的に副作用等で患者は肉体的・精神的、かつ経済的にも苦しむ。ターミナルケアでも問題は多い。とにかく、三人に一人は癌?という高齢化時代に生きる身として、明日は我が身と思う時、本書を読んだか否か!が一つの岐路となるのは必至。ぜひ一読され、著者とも語り合う機会をつくってみようではありませんか。

(広済堂・一三〇〇円)

1988 JAUW 1st
LECTURE & CONCERT

音楽ってなあに!?
-音楽史概説-
Lecture 伊能美智子
Piano 山根弥生子

I マルティニ プレリュード・メダタール
II シマン 交響的練習曲 (連作5曲を収め)
III ドビュッシー 前奏曲集 Ⅱより
・月光のふりそで
・花火
IV プロコフィエフ ソナタ 5番

1988/10.6/木 PM 6:45
音楽の友ホールの(神楽坂)
主催・向谷せし・大学師範協会202-0572
企画 Mik Music International
枚数付き・¥4,000

相田氏は、支部委員相田志都江さんの御子息。一九六〇年東京生まれ。慶大経済学部卒。一九八四年働ユニバーサル・データを創立。現在、専務取締役。

「こんにちは」

東京支部新委員

◇急なお話で思いがけず入会させていただくことになりました。早く目覚めねばと、戸惑っている昨今です。

穴吹 喜子(大 女)

◇この度、お仲間に入れていただき、ありがとうございました。生きがいを求めるきっかけに、諸先輩の方々の御指導をお願いします。

江口 昌子(日 女)

◇新しい方々との出会いから多くのことを学び、微力ながら協会のお役に立てたらと願っております。

玄地 英子(津 田)

◇先輩の後をただウロウロしながらも、新しい世界が開けたことに感謝し、文学入門講座のお手伝いをしています。

斉藤 智恵(大 女)

◇それぞれの出身校の持ち味を持ち寄りながら、大学の枠を超えた楽しい出会いの予感があります。

平田 宏子(茶 大)

◇活動を通してよい出会いがあり、嬉しく存じます。会の豊かな発展を

願ひ、微力ながらお手伝いさせていただきます。

古谷 達子(聖 心)

◇皆様に教えて戴きながら、楽しく学んでいきたいと思ひます。IFU W加盟の国々の活動も知りたいです。

細越 幸子(慶 応)

◇思いがけず素晴らしい会に入会させていただき、とても光栄です。先輩諸師をお手本に、微力をつくさせていただきます。

宮下 千鶴(日 女)

◇このたび委員にさせていただきまして、いろいろ学ばせていただく事が多く、私にとっては本当によい経験になります。今後共よろしくお願いいたします。

山本 明子(聖 心)

◇少し目を外へ向けた、そう思った時期に、会へのお誘いをいただきました。新たな出会いを、楽しみに。

八木 博子(茶 大)

◇協会の役割を理解し、社会への一つの窓として、新しい発見を期待しています。

吉田 桂子(奈 女)

寄贈図書紹介

○「ショパンが弾けた!」

伊能美智子 著

春秋社・一〇〇〇円

寄贈者 伊能美智子氏

(会員・音楽家)

○「これからの相続対策と遺言の書き方」上手な残し方・残され方、悩みの知恵

東京相続遺言研究会編

主婦の友社・一八〇〇円

寄贈者 白井典子氏

(会員・弁護士)



求ム／原稿情報

企画

情報

- 教えた方
- 教わりたい方
- サークル作り
- その他

皆様がお持ちの様々な知識・技術・情報を与えたり、与えられたりという機会を作ってみませんか。

自薦・他薦・歓迎致します。

● どなたか唐詩を御一緒に読んで下さる方はいらっしゃいませんか。

— 初級英会話講座の御案内 —

気楽にやってみようと思おう方

四十歳以上歓迎

○ 十月開講予定

講師 石塚英子氏

(会員・聖心出身)

定員 二十名

費用 一万円(十回分)

(主催・財務部)

編集後記



■七月。今年の流行花「ひまわり」の季節がやってきます。題字も衣替えしました。編集委員も第四号から玄地・津森・八木の三名が新メンバーとして加わり、平均年齢もぐんと下がって、益々活気づいております。■新緑の頃、田中照子先生をお訪ねし「私の昭和史」を語って頂きましたが、留学時代のお話になると、時折流暢な英語が飛び出すなど印象的で、三時間余の対話も短く感じました。■「ともしび」が様々な楽しい出会いを生む広場となるように、これから読者の皆様にとって魅力的な会誌にしていきたいと思ひます。

(浅田)